

平成23年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

まつのごしゅう 彫刻家松野伍秀とその作品

松野伍秀、本名松野栄二は大正4年佐賀県佐賀市に生まれました。戦後、三田村立三田中学校の美術教師となります。市内梅郷に住み、三田中学校が青梅市立第五中学校、そして青梅市立西中学校と統合され名前が変わりましたが、昭和53年まで同校で教鞭をとってきました。また市立第四中学校の講師も務めていました。

一方で彫刻家朝倉文夫の内弟子であり、日展の無鑑査会員として立派な彫塑作品を数多く制作しています。昭和61年71歳で亡くなりましたが、各所に作品が残されています。身近に見ることができる作品を、市内を中心に紹介します。

① 「^{しょうとくひ}頌徳碑」・・・吉野織部之助のレリーフ



新町2丁目新町御嶽神社境内にあり、昭和35年10月建立。江戸時代、幕府の新田開発により新町村が開村されて350年になるのを記念し、武蔵野開拓の祖である吉野織部之助の事績を顕彰して造られました。このレリーフには他の作品では見ることが難しい「伍秀作」というサインを右下に見ることができます。

② 「平和の像」・・・男女が手をつなぎ、男性が右手を挙げている裸立像

東青梅1丁目青梅市役所西側市民広場内にあり、昭和36年4月5日建立。青梅市が昭和33年世界連邦平和都市宣言を宣明したことと、青梅市役所旧庁舎新築を記念して造られました。台座には「平和」と書かれています。



③ 「板垣退助像」・・・フロックコートを着た板垣退助の立像



駒木町1丁目釜の淵公園内にあり、昭和36年5月建立。明治時代に三多摩自由党の有志が、党首の板垣退助を対岸の大柳河原に招いて鮎漁を楽しんだことから造られました。台座に「板垣死すとも自由は死せず」と書かれています。

④ 「岩浪光二郎翁之寿像」・・・岩浪光二郎の胸像

長淵7丁目調布橋の長淵側にあり、昭和37年11月3日、旧調布村村長であった岩浪光二郎の郷土興隆と藍綬褒章受章を讃えて建立されました。



⑤「少年の像」・・・野球帽をかぶり、右手にボールを持つ少年の立像



梅郷3丁目市立第五小学校校庭にあります。『青梅市立第五小学校創立130周年記念誌 わたしたちの学校』に、「昭和47年11月、松野さんのお子さんが五小に通っていたこともあり“子どもたちが健やかに育つように”という願いをこめて、贈ってくださいました」と記載されています。（見学には許可が必要です。）

⑥「若鮎の像」・・・女性が泳いでいるような様子の裸像

大柳町柳淵橋の大柳側にあり、昭和48年12月20日、大正2年日本最初の鮎放流に成功した地であることを記念し建立されました。アユの美しさを女性に準^{なぞら}えてデザインしたと言われています。



⑦「平和像」・・・右手を腰に当てている男性の立像



JR青梅駅前のロータリー中央にあり、昭和54年10月18日、青梅市が平和都市宣言をしてから20周年を迎えるのを記念して建立されました。台座の「平和」という文字は湯川秀樹博士夫人である湯川スミさんによるものです。

⑧「青年像」・・・青年の立像

河辺町4丁目青梅市総合体育館入口に昭和55年10月、同体育館開館を記念して建立されました。台座には「青年像」と書かれていて、右手には弓状の物を持っています。



⑨「玉川兄弟の像」・・・兄庄右衛門が堰を指差して立ち、弟清右衛門が測量用の杖尺を持って座る像



羽村市玉川の玉川上水取水堰に昭和33年9月、地元の羽村水源愛護会が中心となり建立されました。江戸時代前期、玉川上水の開削に従事した兄弟の姿を現した松野伍秀の代表作です。

（写真提供：羽村市郷土博物館）

*その他に青梅市立美術館には「夏」（昭和52年）、「海風」（昭和55年）と題する男性の石膏製立像2体が収蔵されています。共に日展に出品され、自身が昭和59年美術館に寄贈したものです。
（文責 小島みどり）